

令和元年度 金光八尾中学校・高等学校 学校評価実施報告

1. めざす学校像

本校では開校以来、『人はみな神の氏子である』という金光教祖の広大かつ自然な教えに基づき、すべての人に与えられている個性を生かす教育の場を願う」という建学の精神に基づき、教育方針として「確かな学力」と「豊かな情操」を、教育理念として「人間平等の教育」「個性尊重の教育」「心を育てる教育」をそれぞれ掲げ、将来を生きていく力と、真に社会に役立つ人間の育成に努めている。

1. 人間平等の教育＝人間尊重・人間平等の精神を基に、豊かな情操を育むとともに確かな学力を育成する。
2. 個性尊重の教育＝個性は他の人との比較ではなく、その人の内面にある素晴らしいものこそが個性であるとして、一人ひとりが持つ個性、特性を最大限伸ばす。
3. 心を育てる教育＝人は、お互いが助け合い、支え合って生きていることを認識し、相手を思いやる心、感謝の気持ちをもって他と接することができる心を育てる。

2. 中期的目標

「確かな学力」と「豊かな情操」を教育方針に、心豊かな人間を育成するため「人を思いやり物にも感謝すること」、「常に向上をめざし努力すること」、「ものごとに素直に感動する心を持つこと」の三つを目標として掲げている。これらのことを基軸として年度当初に学校経営方針を示し、心豊かな生徒の育成と、それぞれの生徒の目標の実現をめざし取り組んでいる。

(1) 学校運営

- ①大学入試改革や新学習指導要領への対応
- ②安全対策及び生徒への緊急連絡の対応
- ③組織の活性化による学校改革への意欲向上
- ④生徒募集定員の確保
- ⑤WEBでの説明会申し込み・入試出願等の推進

(2) 教育実践の充実

①教科指導

- ・公開研究授業の実施
- ・アクティブラーニングなどの手法を用いた授業方法・授業内容の工夫改善
- ・教科会等での自主研修の推進
- ・中学・高校が連動した指導
- ・大学入試制度改革・学習指導要領改訂に伴う研究・実践

②生徒指導

- ・挨拶運動の推進
- ・積極的な生徒指導により、問題事象のない学校への取り組み
- ・情報端末機器の適正な使用のための指導

③進路指導

- ・進路学習の充実
- ・退学の防止

④人権教育

- ・人権意識の醸成
- ・人権教育にかかる授業の工夫改善

⑤情操教育

- ・道徳の授業の研究実践
- ・宗教の時間を通した心豊かな人間の育成

⑥家庭との連携

- ・保護者会等の開催
- ・ホームページの充実、学校通信・中学通信等の発行

⑦広報・募集活動

- ・学校の魅力や特色の発信
- ・教職員一丸となった広報活動
- ・高校入試での Web 出願の開始と募集定員の確保

(3) 意識改革と資質向上

- ・教職員間の連携
- ・「生徒による授業アンケート」等の活用による授業力の向上
- ・管理職による教職員ヒアリングの実施
- ・教科会、各部会、学年会等の開催による情報の共有
- ・企画力の育成

(4) 学校行事

- ・生徒会の自主活動の推進
- ・部活動の活性化
- ・中学での海外研修旅行の実施の準備

【自己評価の結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見】

自己評価の結果と分析	学校関係者評価委員会からの意見
<p>総括時期に、新型コロナウイルス感染拡大に伴う休校措置となり、時間をとって総括できなかった。例年実施している「生徒による教員の授業評価」では、現在の授業に90%以上満足しているという生徒が8割いるが、さらに満足感や充実感を持たせられるよう、より良い授業をめざし工夫改善に努めていく。一方、本校への受験者が減っており、特色や魅力を効果的に発信していく必要がある。しかし受験生の中には、頑張っただけで学習することが苦手な生徒、大学に進学するため附属高校に進学する生徒が増えている。今後、授業や学校行事などを創意工夫し、生徒のニーズに合うようさらに研究をしていく。また、学習環境の中でICTの利活用は欠かすことのできないものとなっていることから、来年度はclassiの導入を含め、ICTの充実に努めていく。近年、学校教育に関わって保護者からの意見や要望も多くなっており、選択と集中で効率的な学校運営を行っていく。</p>	<p>新型コロナウイルスによる学校休業により、評価委員からは紙面により意見をいただいた。意見では、学校運営は先生方が協力して円滑に進められており、朝早くから夜遅くまで生徒に対応して頂いている。2021年度から制服も変わるので、「生徒と共に頑張る学校」という良いイメージを出してほしい。昨年の6月からスマホの学校への持ち込みができ、安心できるようになった。また、各教科で目標が掲げ、その達成に取り組むのは良いが、一方で目標に達しない生徒がいるのも事実でありホローをお願いしたい。近年、英語に力を入れて指導していただいているが、英語嫌いな生徒を作ることのないようにお願いしたい。中学校での海外研修旅行や、高校でのベルリッツの英会話の取り組みに期待している。生徒一人ひとりにはわかりたい成績を上げたい、と思っていることを理解して指導してほしい。また、学校と意見交換できる機会を多く作って欲しい、などの意見が寄せられた。</p>

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
中学校運営	ア、大学入試改革や新学習指導要領への対応	ア、大学入試改革・学習指導要領改訂に伴う対策委員会を設置し、今後の対応策を検討する。	ア、外部の研修会等へ参加するとともに、対策委員会を学期1回程度開催し、研究成果を校内で報告する。	ア、研究会への参加、伝達講習等を計画通り行った。共通テストへの変更もあり戸惑いがあるが、研修を重ねていく。
	イ、安全対策及び生徒への緊急連絡の対応	イ、警察署・消防署等から講師を招き、交通安全・防災訓練、SNS等について指導することで生徒の安全を確保する。特に増加している自転車事故の防止に努める。また、地震等の災害に対応するため、緊急連絡の整備をする。	イ、防災訓練・交通安全・SNS等の指導を年1回以上実施する。自転車事故についての啓発を行い年間事故件数40件以下にする。HPやメールの活用により緊急連絡網を整備する。	イ、交通安全指導を5/7、地震避難訓練を5/14、9/12の2回実施した。自転車事故は指導しているが減少しておらず継続指導する。学校からの一斉緊急連絡は来年

<p>学 校 運 営</p>	<p>ウ組織の活性化による学校改革への意欲向上</p> <p>エ、生徒募集定員の確保</p> <p>オ、WEBでの説明会申し込み・入試出願等の推進</p>	<p>ウ、教員が「設定目標自己診断」を実施することで、PDCA サイクルによる学校教育への改善意欲を向上させる。</p> <p>エ、学校の魅力と進学実績の発信により、生徒の募集定員を確保する。</p> <p>オ、中学受験での Web 出願の実施を踏まえ、高校での Web 出願を実施する。</p>	<p>ウ、各教員の設定した目標について、管理職による全教員へのヒアリングを年 1 回以上実施し、実施状況を把握し、指導・助言する。</p> <p>エ、教職員と入試広報部の連携により中学、高校とともに、定員を確保する。</p> <p>オ、他校の導入を踏まえ検討する。併願受験者 350 人の確保を目指す。</p>	<p>度実施する。</p> <p>ウ、全教職員へのヒアリングを行い、管理職で共通認識をもった。来年度も実施し、指導助言に努める。</p> <p>エ、危機感を持って対応し、一定の成果はあったが、定員の充足はできなかった。今後も組織的な取り組みを継続する。</p> <p>オ、Web 入試は円滑に進んだ。併願数は目標に達しなかった。今後も定員確保に努める。</p>
<p>教 育 実 践 の 充 実</p>	<p><教科指導></p> <p>ア、公開研究授業の実施</p> <p>イ、アクティブラーニングなどの手法を用いた授業方法・授業内容の工夫改善</p> <p>ウ、教科会等での自主研修の推進</p> <p>エ、中学・高校が連動した指導</p>	<p>ア、教員の授業力や指導力の向上のため、定期的に公開研究授業を実施する。</p> <p>イ、教員の授業力の向上のため、学期に 1 回以上はアクティブラーニングを用いた授業に取り組む。</p> <p>ウ、各教科で設定した研究テーマについて実践交流をする。</p> <p>エ、教科指導・生徒指導面において、中学・高校間で段差のない指導を行う。</p>	<p>ア、年 5 回以上の研究授業を実施し、指導力の向上をめざす。教科によっては外部講師を招聘し、指導を受ける。</p> <p>イ、80%以上の生徒が主体的・対話的で深い学びだと感じるような授業になるよう研究実践をする。</p> <p>ウ、教科会を学期に 1 回以上開催し、年度当初に設定したテーマについて協議する。</p> <p>エ各教科のカリキュラムや生徒指導・進路指導に関して中学・高校連絡会を開催する。また、中学生に高校での学習や生活、進路について学ばせる。</p>	<p>ア、予定通り実施した。指導方法の工夫改善が進んでいる。次年度も引き続き実施する。</p> <p>イ、生徒の授業評価では 8 割以上が肯定的評価しているが、課題もあるので、引き続き指導助言する。</p> <p>ウ、各教科ともに課題が多くあり議論が進んでいる。今後も積極的に取り組む。</p> <p>エ、中・高の学習指導要領の改訂が近づき、今後も連絡会で協議を進める。中学生への進路学習会も実施した。</p>

<p>教育実践の充実</p>	<p>オ、大学入試制度改革・学習指導要領改訂に伴う研究・実践</p>	<p>オ、職員会議等で大学入試改革や新学習指導要領改訂について研修し、内容について理解を深め、授業に生かせるようにする。</p>	<p>オ、研修会を年 2 回以上開催し、今後の対応について研究を深め、実践につなげる。</p>	<p>オ、共通テストの見直しが行われている。各大学の今後の動きを注視し的確に情報を分析し対応する。</p>
	<p><生徒指導></p>			
	<p>ア、挨拶運動の推進</p>	<p>ア、生徒会活動や部活動を通して生徒たちが自然と挨拶を交わせるようにする。</p>	<p>ア、生徒の 9 割以上が挨拶していると感じる状況にする。多くの生徒が参加する環境をつくる。</p>	<p>ア、クラブの入部活動を兼ねて挨拶運動を行い効果があった。日常化できるように指導を継続する。</p>
	<p>イ、積極的な生徒指導により、問題事象のない学校への取り組み</p>	<p>イ、事後指導だけでなく事前指導に重点を置く。生徒との対話を大切にし、教員と生徒との望ましい人間関係を構築する。</p>	<p>イ、教職員が積極的に声がけをするとともに、学期ごとに個人懇談を実施する。風紀検査での違反者が全校生徒の 5%未満にする。懲戒事案が 5 件以内にする。</p>	<p>イ、生徒との対話を大切にした指導は継続して行う。風紀違反者、遅刻者は減少し、懲戒は 5%未満だった。継続した取り組みを進める。</p>
	<p>ウ、情報端末機器の適正な使用のための指導</p>	<p>ウ、スマホ等の学校への持込は禁止しているが、入学時や生徒集会等さまざまな機会にとらえて適正な使用について指導するとともに、家庭と連携し、問題事象の減少に努める。</p>	<p>ウ、生徒を対象に、年 2 回以上の指導と、新入生保護者を対象とした研修会を開催する。</p>	<p>ウ、登下校時のスマホ等の使用を許可した。使用上の問題事象はあるので、引き続き家庭と連携し、適正な使用について指導する。</p>
<p><進路指導></p>				
<p>ア、進路学習の充実</p>	<p>ア、生徒一人ひとりの特性や能力、個性等を大切にし、将来を見据えた進路の実現のための指導を行う。</p>	<p>ア、進路 LHR の指導資料を作成をする。生徒・保護者を対象に入試制度や進路状況等について研修会の開催をする。現役合格をめざし、進学率を 90%以上にする。</p>	<p>ア、現役進学率は 85%であった。今後も進路指導部を中心に、希望の大学へ進学できるよう指定校推薦も含め、取り組みを継続する。</p>	
<p>イ、退学の防止</p>	<p>イ、「入学した生徒を卒業まで」を合い言葉に、保護者と連携し一人ひとりに寄り添った指導の徹底を図る。</p>	<p>イ、学期に 1 回以上の個人懇談を実施し、生徒との信頼関係を構築する。退学率を 1%未満にする。</p>	<p>イ、個人懇談は頻繁に行った。今後も継続して実施する。退学率は 1%未満だが転学者が多かった。</p>	

教 育 実 践 の 充 実	<p><人権教育></p> <p>ア、人権意識の醸成</p>	<p>ア、「いじめ防止基本方針」に基づき、「いじめ」のない学校づくりに努める。</p>	<p>ア、「いじめゼロ」を目指す。いじめが起こった場合は適正に対応できるよう研究と研修に努める。</p>	<p>ア、小学校での問題が継続する事もあり、適切な初期対応ができるよう連携して進める。</p>
	<p>イ、人権教育にかかる授業の工夫改善</p>	<p>イ、生徒とともに考える学習形態・参加型学習の研究・実践に努める。校外での研修会に参加し、他校の実践に学ぶ。</p>	<p>イ、資料や指導方法・指導内容について研究・検討するとともに、校外の研修会に10人以上が参加する。</p>	<p>イ、私学人研の夏季研修会で本校の取り組みを報告した。校外の研修会に10人以上が参加した。今後も継続して取り組む。</p>
	<p><情操教育></p> <p>ア、道徳の授業の研究実践</p>	<p>ア、人間としての生き方を学び、それを自身の生活に生かす</p>	<p>ア、道徳・情操教育委員会を学期ごとに開催し、年間計画を樹立する。道徳の時間の授業研究を行い、全面実施に備える。</p>	<p>ア、年間計画に沿って授業を行い、研究を深めた。今後もより良い授業をめざす。</p>
	<p>イ、宗教の時間を通した心豊かな人間の育成</p>	<p>イ、他校の実践も参考にしながら指導内容・指導方法について研究を深め、実践につなげる。</p>	<p>イ、指導内容の充実を図る宗教担当者会議と、宗教に関する校内研修会を年1回以上開催する。</p>	<p>イ、宗教担当者会議を予定通り実施した。校内研修会を11/6に実施した。今後も継続して取り組む。</p>
	<p><家庭との連携></p> <p>ア、保護者会等の開催</p>	<p>ア、各種の説明会や保護者会を有効活用し、保護者との連携を図る。</p>	<p>ア、各学級において保護者会を年間2回以上開催し、連携を図る。</p>	<p>ア、保護者会を2回実施した。スマホ等の使用や家庭学習について話しあった。</p>
	<p>イ、ホームページの充実、学校通信・中学通信等の発行</p>	<p>イ、ホームページの随時更新と学校新聞・中学新聞等の定期発行を通して、学校の情報を積極的に発信する。</p>	<p>イ、ホームページに各行事やトピックス等を随時更新して載せる。金光八尾新聞年2回、中学新聞・保健室便りなど毎月1回、定期的に発行する。</p>	<p>イ、新聞・便り等は予定通り発行できた。また、行事等の活動の様子をホームページで現地から発信し好評であった。</p>

<p>教育実践の充実</p>	<p>〈広報・募集活動〉 ア、学校の魅力や特色の発信 イ、教職員一丸となった広報活動 ウ、高校入試での Web 出願の開始と募集定員の確保</p>	<p>ア、学校案内・ホームページを活用し、生徒の出身中学校や塾等を訪問し、学校紹介をすることも意見交換を通して学校の特色等を発信する。 イ、入試広報部と教職員が連携し、本校の取り組みや学校の魅力を発信する。 ウ、高校での Web 出願を開始する。専願者の増員を含め、併願校としても選ばれる魅力ある学校にすることで、入学生の確保につなげる。</p>	<p>ア、学校の特色・魅力や進路実績を発信することで、中学（70人）、高校（240人）の定員を確保する。 イ、オープンスクール・学校説明会・私学展等に、入試広報部職員と教員が参加し、受験生や保護者に本校の魅力を発信する。 ウ、受験者が減った要因を明らかにし対応講じる。募集定員の確保と併願者350人を確保する。特に、成績上位者の併願を促す。</p>	<p>ア、新入生は中学 51人、高校 238人となり、定員を確保できなかった。さらに募集方法を検討し、定員の確保に努める。 イ、教職員一丸となって広報活動・募集活動に努めた。今後も知恵を出しながら活動を進める。 ウ、本校の魅力発信に努めた。専願は一定の成果があったが、併願受験者が 300人にも届かず、今後も併願受験者の増員をめざす。</p>
<p>意識改革と資質向上</p>	<p>ア、教職員間の連携 イ、「生徒による授業アンケート」等の活用による授業力の向上 ウ、管理職による教職員ヒアリングの実施 エ、教科会、各部会、学年会等の開催による情報の共有</p>	<p>ア、報告・連絡（連携）・相談を徹底し、組織力の向上を図る。 イ、「生徒による授業アンケート」により授業の実態を把握する。教科会等で調査結果を分析し、各教員が授業に活かす。 ウ、管理職とのヒアリングを通して学校運営等について教職員と意見交換する。 エ、教科会、部会、学年会を定期開催し、情報交換や受講した研修内容等について報告し、情報を共有する。</p>	<p>ア、管理職と各部長で構成する運営委員会の充実と、中学部会・高校各学年会をの週ごとに定例開催する。 イ、各教員の授業に対する生徒の肯定的評価が 80%以上獲得できるようにする。 ウ、管理職と全教職員が、年 1 回以上学校運営等について意見交換する。 エ、中学部会・各学年会を毎週開催するとともに、教科会・各部会を年 3 回以上開催し、課題について意見交換をする。</p>	<p>ア、各会議は予定通り円滑に進んだ。今後も会議内容が変化する教育に対応できるよう取り組む。 イ、生徒の 96%が肯定的評価をしている。さらに良い授業が提供できるよう工夫改善に努める。 ウ、全員の教職員と意見交換し、学校運営に役立てた。今後も続ける。 エ、計画どおり実施した。部内の意見調整・意見交換に役立った。今後も継続していく。</p>

	オ、企画力の育成	オ、学校行事や学年行事に対する意見・改善点を集約を通して、企画力の充実を図る。 外部研修等を通して、学校運営への参画意欲の向上を図る。	オ、教員の各行事への改善意欲が90%以上となるようにする。 校外での研修会等に延べ30人以上が参加する。	オ、30人以上の参加はできなかったが、教育改革に意識をもって情報収集・実践等に努めた。次年度も積極的に進める。
学 校 行 事	ア、生徒会の自主活動の推進 イ、部活動の活性化 ウ、中学での海外研修旅行の実施の準備	ア、生徒会役員や各クラブ員が自主的・自立的に、文化祭、挨拶運動、奉仕活動等に参加するよう支援する。 イ、部活動を通して生徒の自主活動を推進させる。 ウ、2021年度実施に向け、課題等を整理し、円滑に実施できるようにする。	ア、生徒会役員の提案を大切にし、生徒の自主活動の肯定的評価が80%以上になるようにする。 イ、部活動への入部率が、中学で80%以上、高校で45%以上をめざす。 ウ、課題の解決策について協議し、現地での検証作業を実施する。	ア、各クラブが自主的に挨拶運動に参加した。また、生徒会の提案を受けて、文化祭等の改善が進んだ。自主活動の肯定的な評価は83%となった。 イ、部活動の入部率が目標を下回っている。活動の意義をさらに啓発し、入部率の向上をめざす。 ウ、今後も様々な機会を通して、課題となっている自主性の向上と英会話の運用力の向上に努める。